

＜アルミ素材の分類＞			JIS呼称	種類と用途	
アルミニウム	純アルミニウム	高純度アルミニウム	99.9%以上	強度は低いが加工性、耐食性、溶接性、電気・熱の伝導性に優れ、反射板、装飾品、容器、電気器具などに用いられる。	
		工業用純アルミニウム	99.70%		A1070
			99.50%		A1050
			99.00%		A1100
	アルミニウム合金	Al-Cu系 (Cuを3.5~6.8%含む)		A2000系	強度や切削性がよく、航空機、輸送機器、機械部品、構造材に適するが、厳しい腐蝕環境下での使用には不向き。
		Al-Mn系 (Mnを1.0~1.5%含む)		A3000系	耐食性はそのまま、強度が増強され、加工性は少し劣るが、純アルミと大差ない。器物、建材、容器など広い用途がある。
		Al-Si系 (Siを多く含む)		A4000系	鍛造ピストンや建材用パネル、溶接用心線に用いられるが。融点が低いためろう材としても用いられる。
		Al-Mg系 (Mgを0.5~5.0%含む)		A5000系	低マグネシウム材は研磨によって高い光輝性を持ち、装飾材などに。高マグネ材は缶蓋や構造材として使用される。
		Al-Mg-Si系 (MgとSiを1.0%程度含む)		A6000系	6061は銅を微量添加したもので各種構造材に使用、耐食性→良。6063は強度は落ちるが押出性が良く、建材関係に多く用いられる。
		Al-Zn系 (Znを5.0~6.0%含む)		A7000系	7075は超々ジュラルミンと呼ばれ、アルミニウム合金の中で最高の強度で、航空機やスポーツ用具に使われる。